

リケンテクノス株式会社

2019年3月期 上期

(2019年3月期 第2四半期)

決算説明会

2018年11月15日

- 決 算 概 要
- 事 業 の 概 況
- 今 後 の 展 開

決算概要

単位：百万円、円

ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

科 目	2019年 3月期上期	2018年 3月期上期	前年同期比	増減率	2019年 3月期上期 業績予想	達成率
売上高	47,252	45,890	+1,362	+3.0%	46,500	101.6%
売上総利益	8,560	8,389	+171	+2.0%	—	—
営業利益	2,705	2,554	+151	+5.9%	2,800	96.6%
経常利益	2,777	2,634	+143	+5.4%	2,700	102.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,606	1,202	+404	+33.6%	1,300	123.5%
1株当り利益	25.04	20.36	+4.68	+23.0%	20.28	123.5%

※ 過去最高

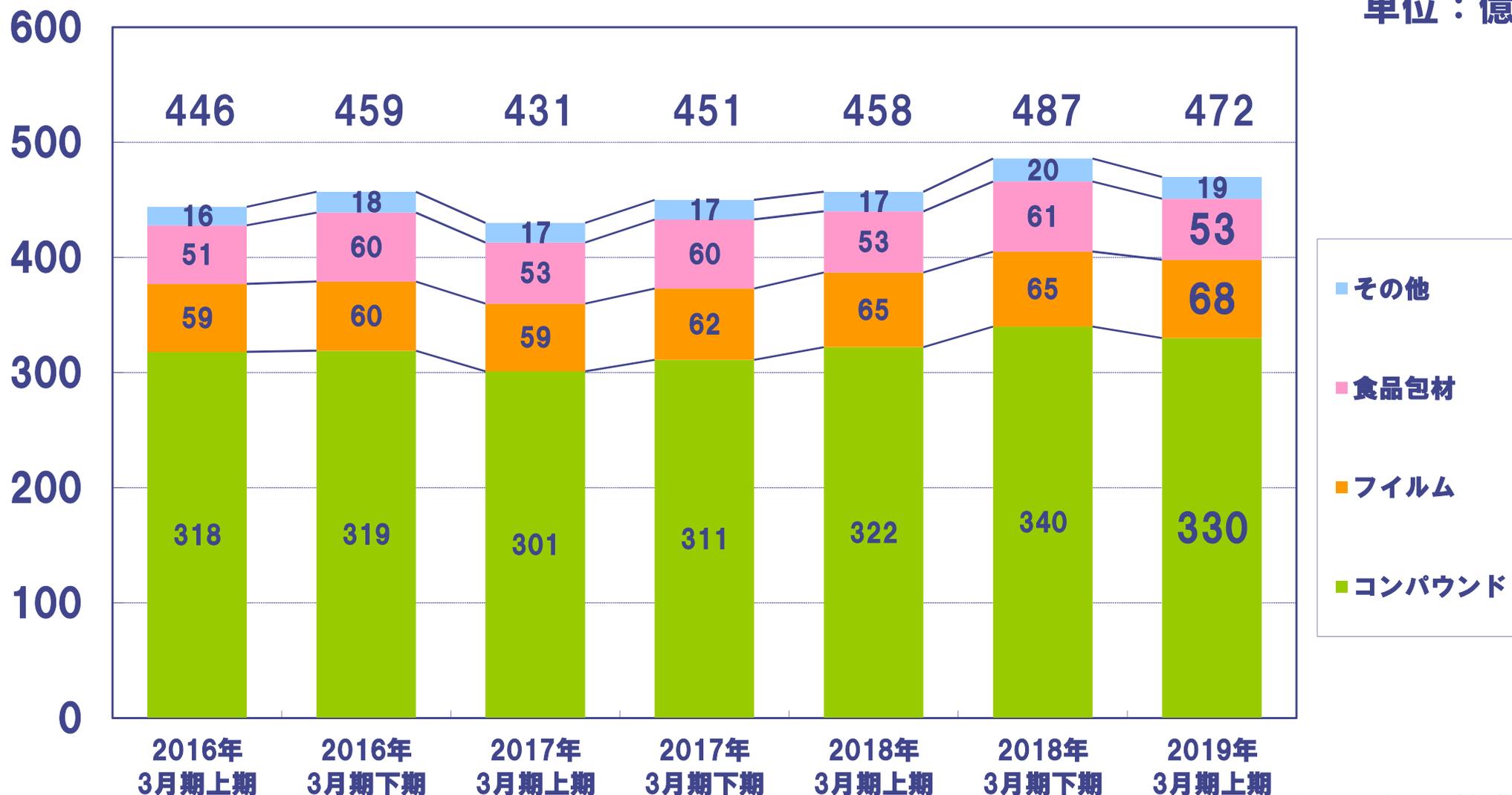
セグメント別売上高推移



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

2019年3月期上期 売上高 472億円
前年同期比 1,362百万円増 (3.0%増)

単位：億円



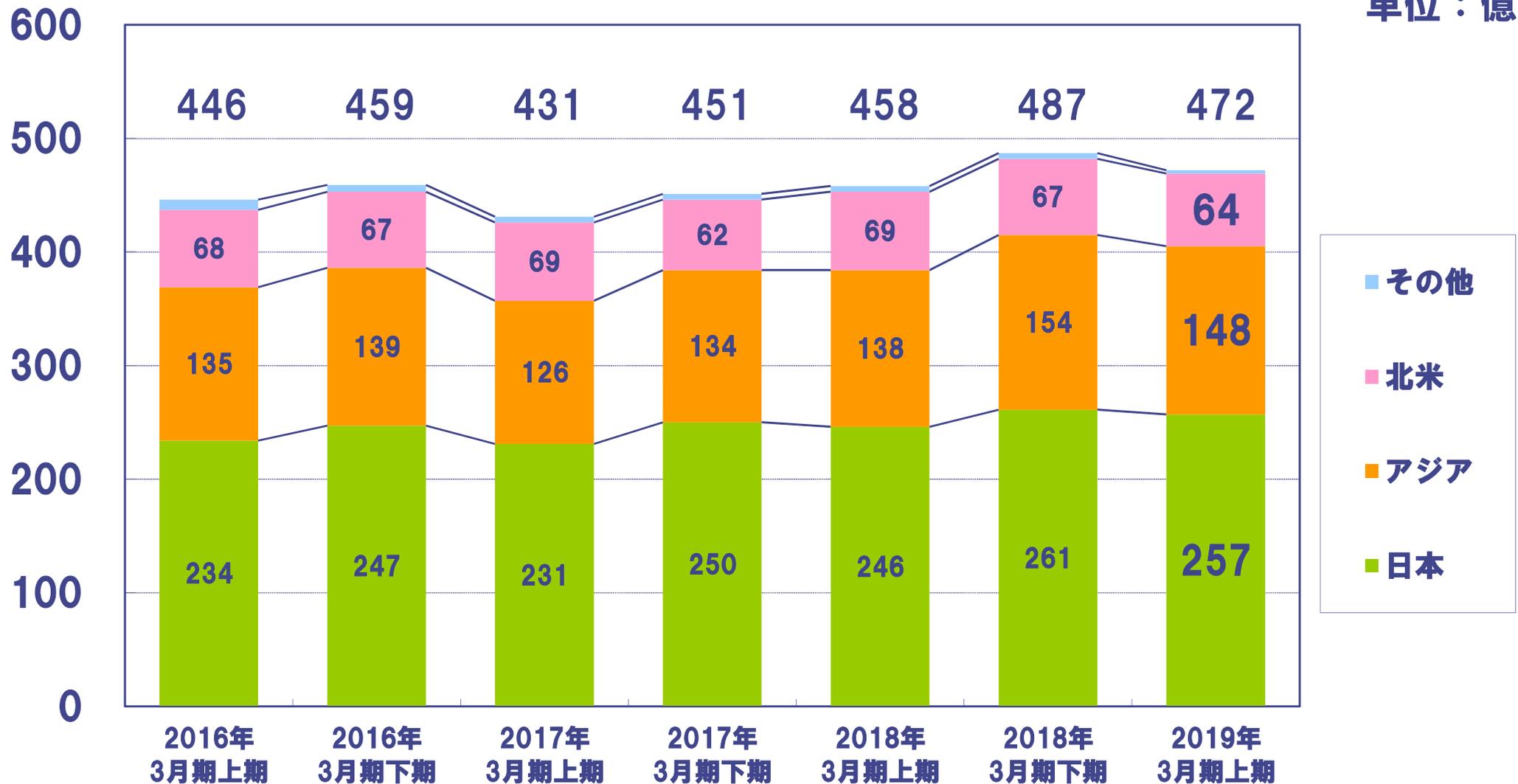
地域別売上高推移



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

2019年3月期上期 売上高 472億円
前年同期比 1,362百万円増 (3.0%増)

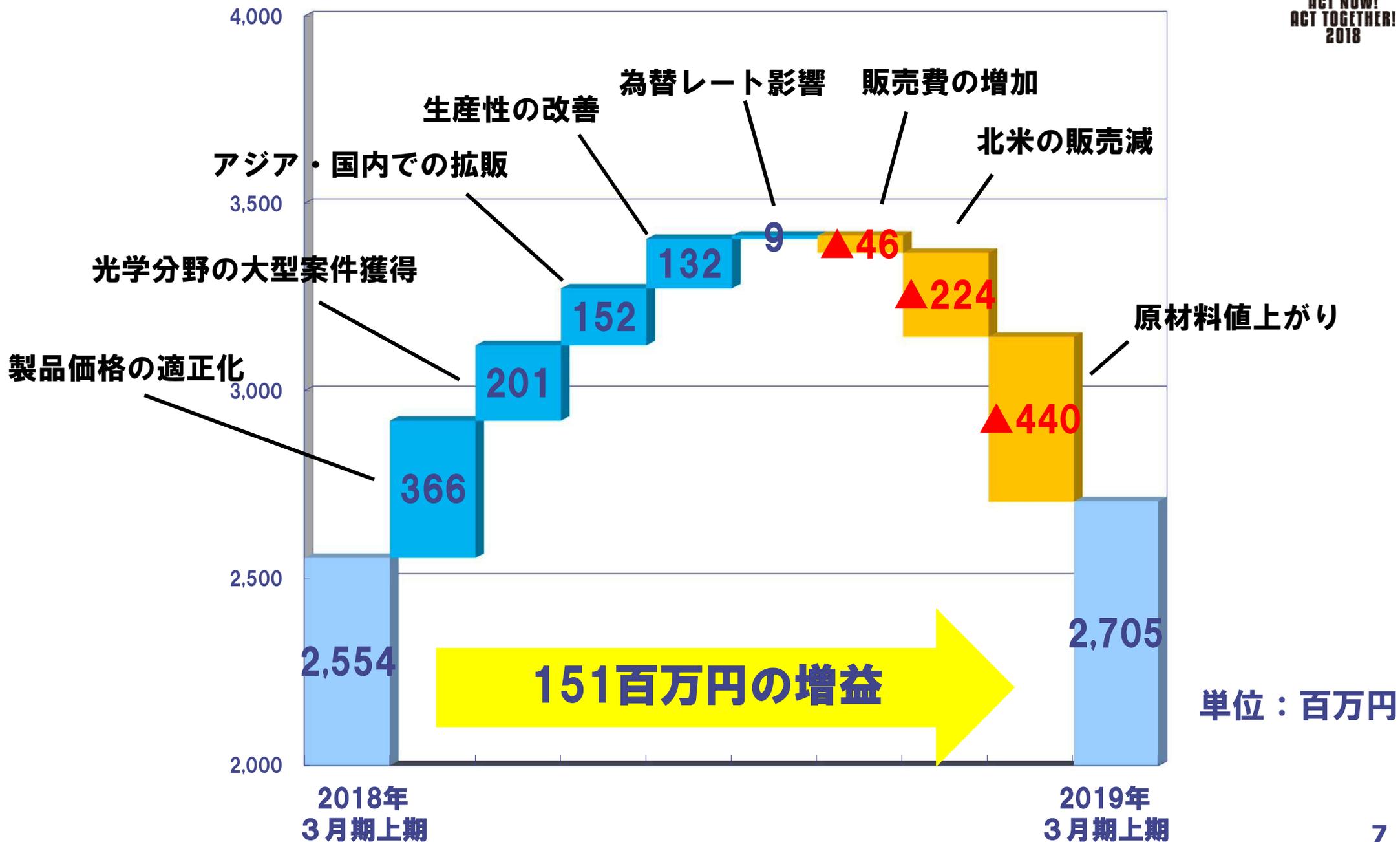
単位：億円



営業利益 前年同期比 増減要因分析



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018



連結貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

資産合計

93,058百万円

前期末比 1,192百万円増

流動資産 54,681百万円

固定資産 38,377百万円

負債合計

37,581 百万円

前期末比 569百万円増

純資産合計

55,477 百万円

前期末比 623百万円増

当期

前年
同期比

営業CF 4,349 +1,741

投資CF ▲2,000 ▲505

財務CF ▲786 +412

増減額 1,363 +1,533

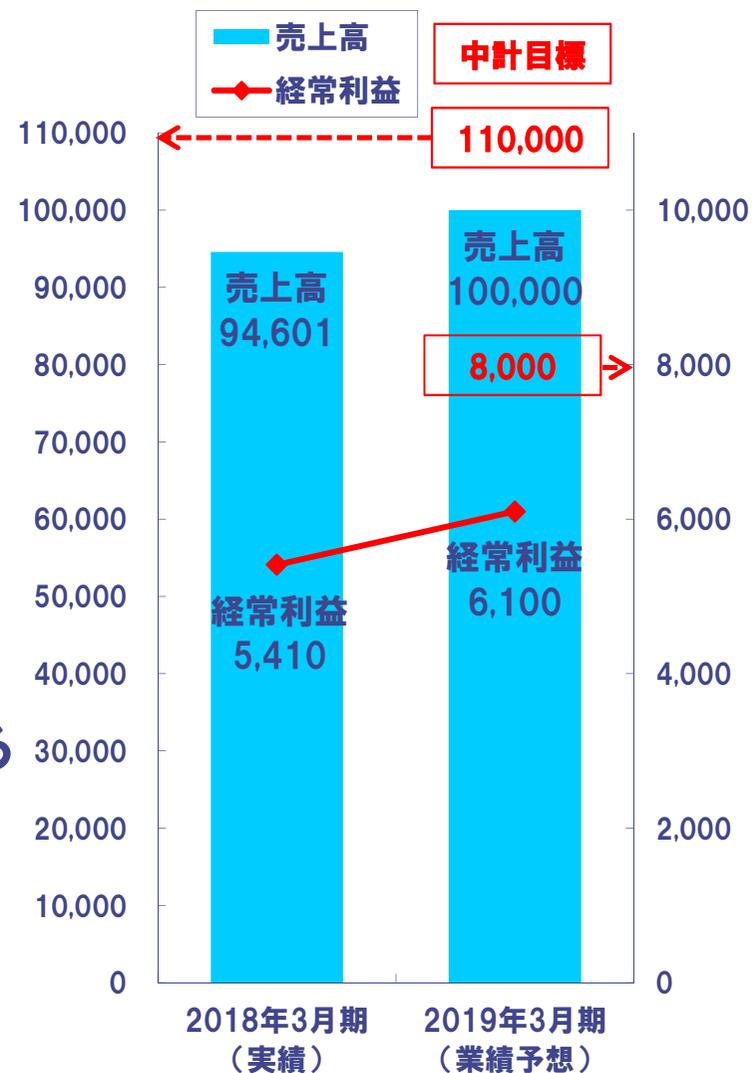
期末残高 16,019 +1,819



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

科目	2018年3月期 実績	2019年3月期 業績予想	伸び率
売上高	94,601	100,000	+5.7%
営業利益	5,399	6,300	+16.7%
経常利益	5,410	6,100	+12.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,538	2,900	+14.3%
1株当たり利益	41.64	45.24	+8.6%

（単位：百万円、円）

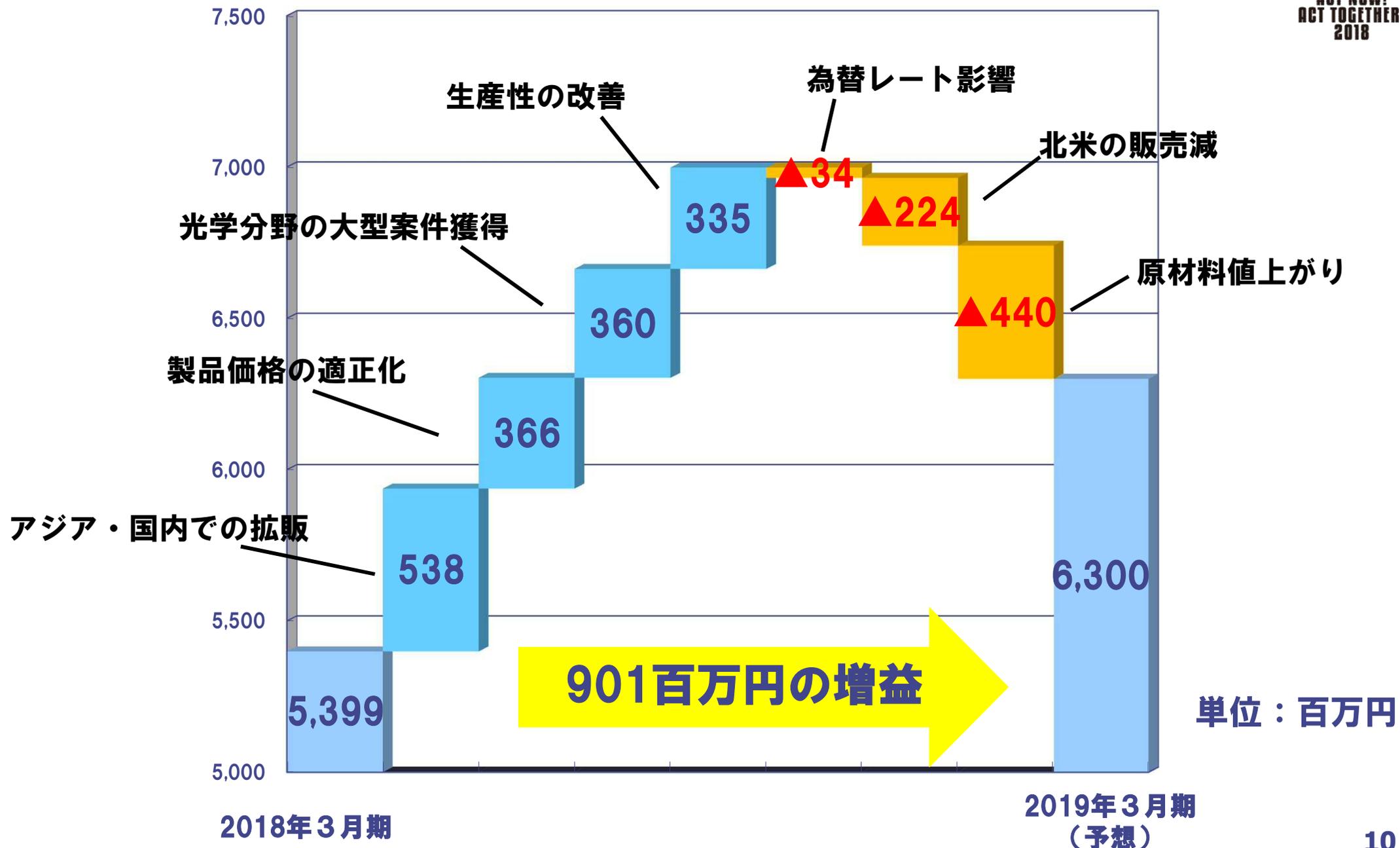


【業績予想のポイント】

- 国内は、オリンピック関連需要を含めた各市場における新規拡販、及び光学分野での量産継続による売上拡大
- 海外は、アジアでの投資設備を活用し、電線、自動車市場での売上拡大を見込む
- 全体の数量増による増益を見込む



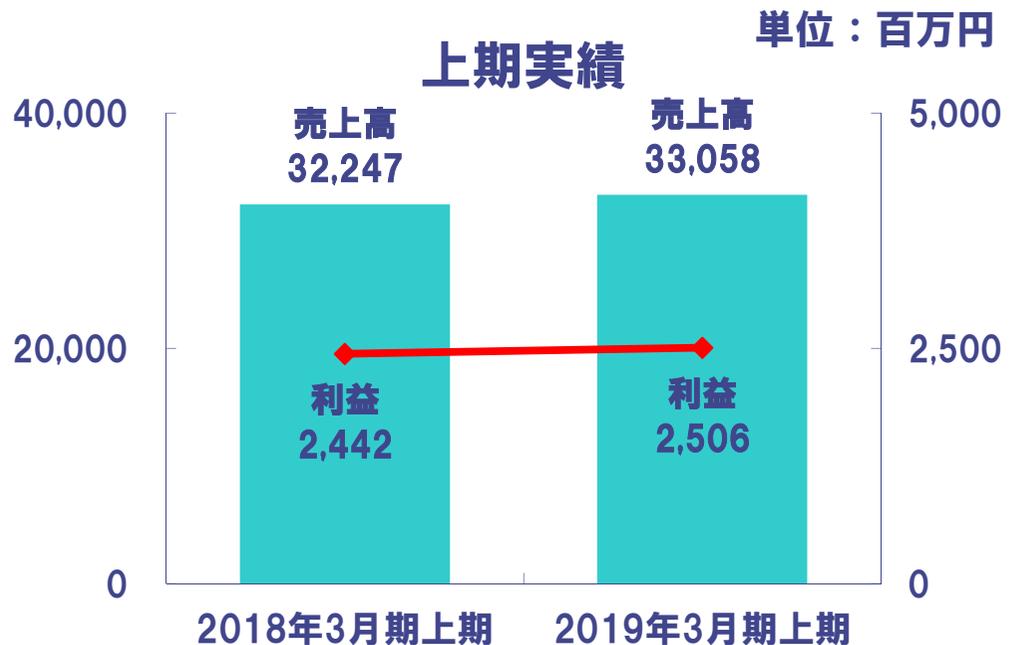
ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018



事業の概況



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018



2019年3月期 上期

810百万円増収

前年同期比2.5%増

63百万円増益

前年同期比2.6%増

- 国内は建材、電線、自動車市場での販売が総じて好調に推移し増収
- 海外はアジアの電線、自動車市場での販売が好調に推移し、増収
- 数量増により増益

2019年3月期 業績予想

3,721百万円増収

前期比5.6%増

292百万円増益

前期比5.7%増

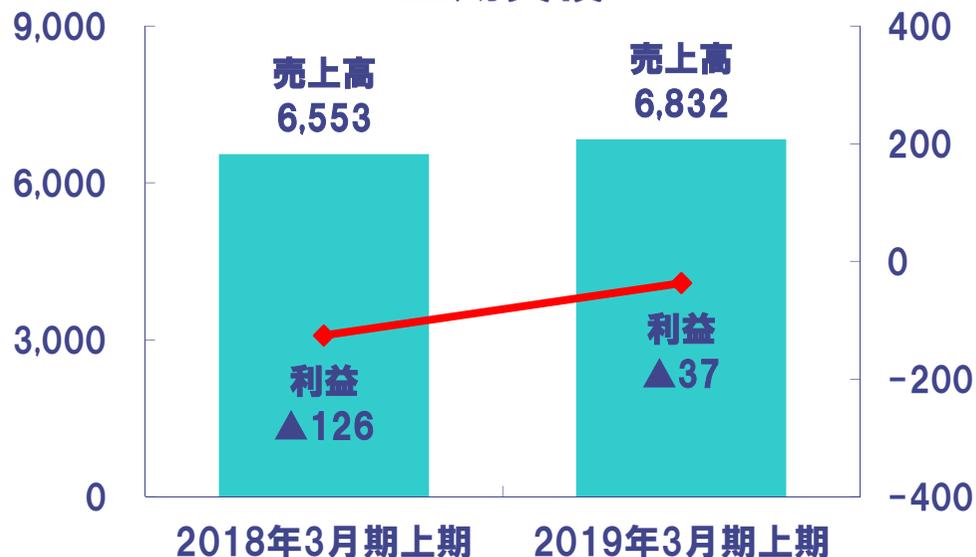
- 国内は建材、電線市場を中心としたオリンピック、首都圏再開発による需要増、自動車市場での機能部材の採用拡大により増収を見込む
- 海外はアジアの電線、自動車市場での販売が引き続き好調に推移し、増収を見込む
- 数量増による増益を見込む



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

上期実績

単位：百万円



2019年3月期 上期

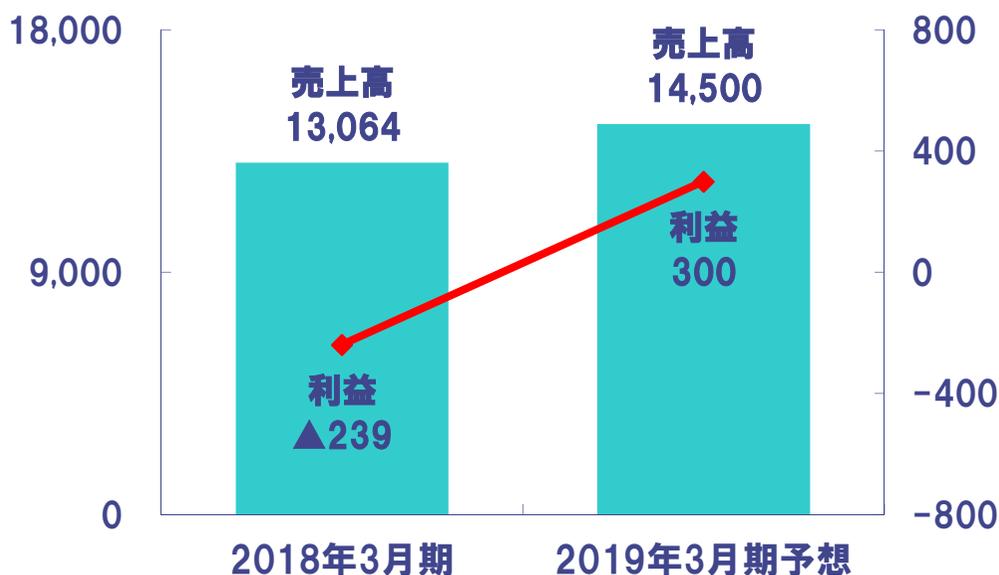
278百万円増収

89百万円赤字幅削減

前年同期比4.2%増

- 国内住宅着工件数減少の影響等もあり、建装材市場で減収
- 光学分野では、大型案件の実績化により増収
- 光学分野での量産効果により、利益改善するも黒字化に至らず

通期予想



2019年3月期 業績予想

1,436百万円増収

539百万円の改善

前期比11.0%増

黒字化

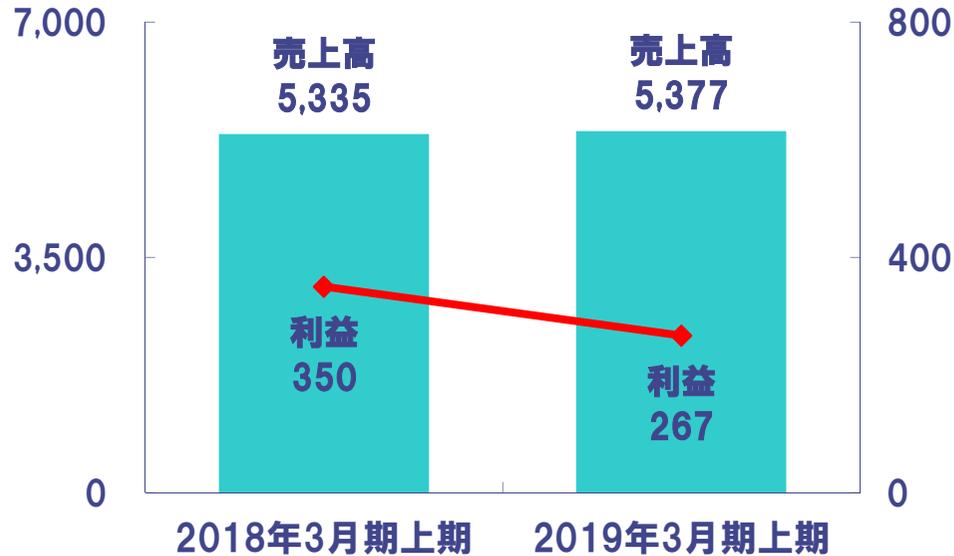
- 国内建装材、アジアの電材市場における新規拡販及びメディア市場の需要増での増収
- 光学分野での量産継続による増収
- 光学分野での効率化及び全体の数量増による増益により黒字化を見込む



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

上期実績

単位：百万円



2019年3月期 上期

41百万円増収

83百万円減益

前年同期比0.8%増

前年同期比23.7%減

- 小巻ラップは飲食店、家庭用向けに増収するも業務用ラップは微減し全体で横ばい
- 製品価格の適正化遅れにより減益

通期予想



2019年3月期 業績予想

219百万円増収

40百万円減益

前期比1.9%増

前期比5.1%減

- 小巻ラップは家庭用市場に販路開拓し増収
- 数量増により減益幅縮小

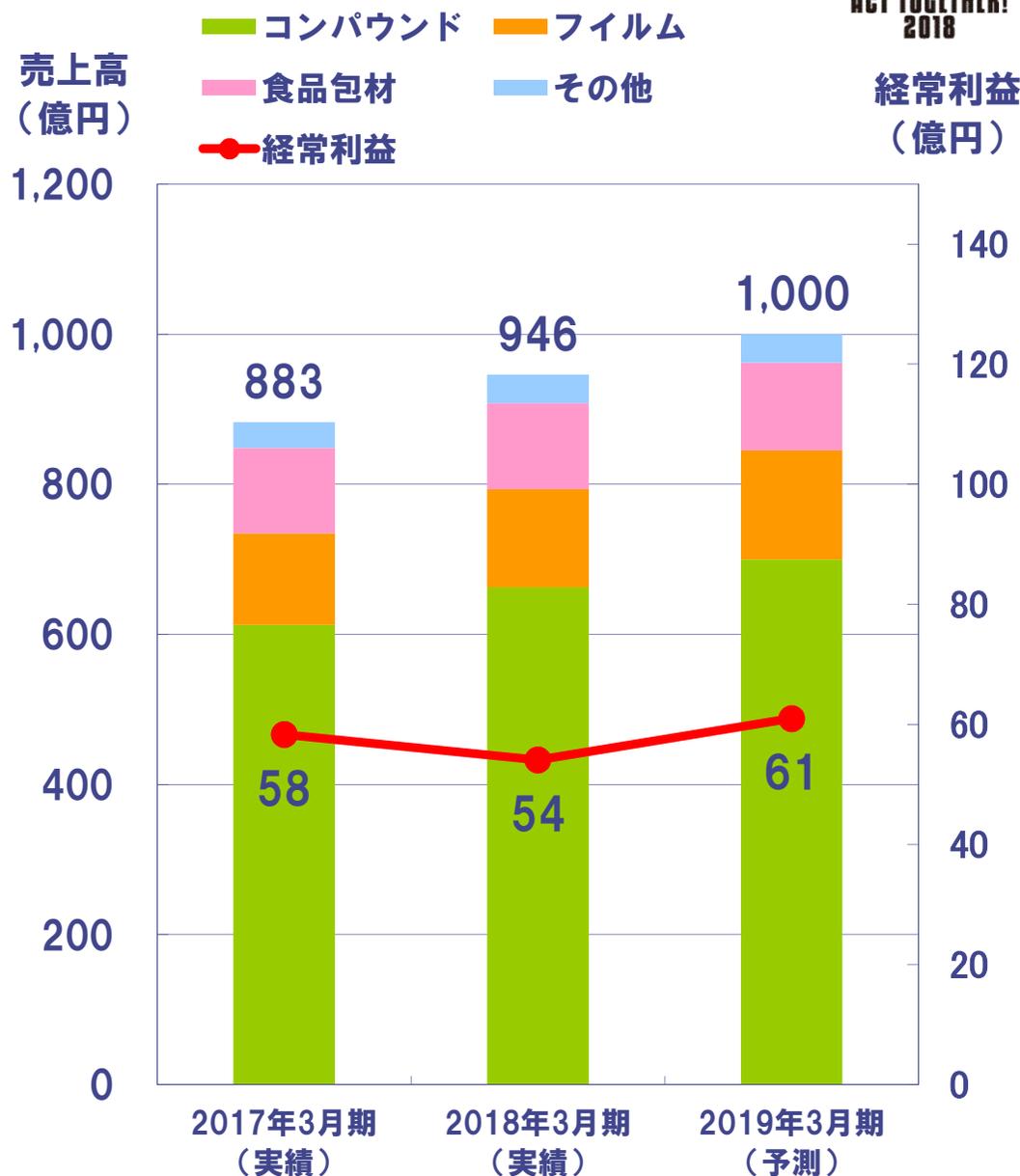
今後の展開

3カ年中期経営計画



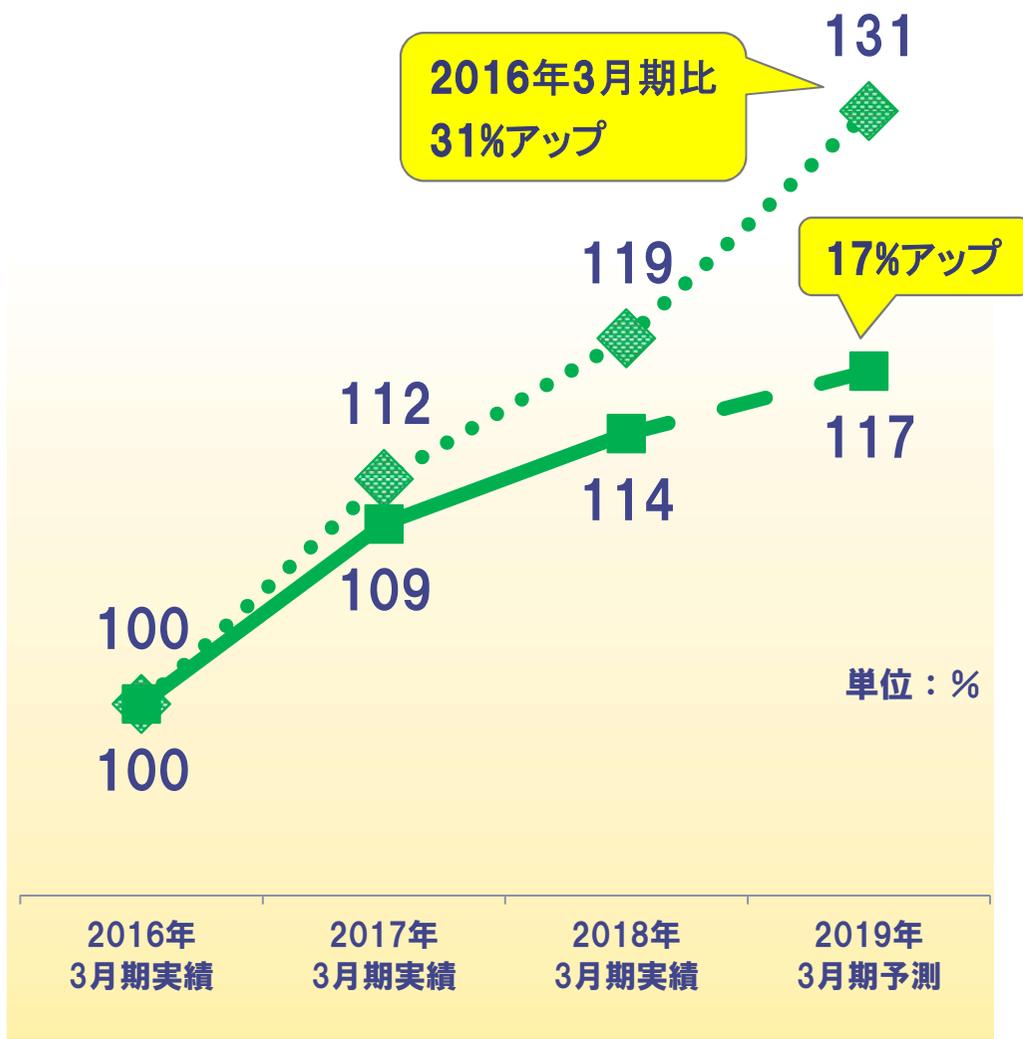
ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

連結 ベース	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 (計画最終年度)
売上高	946億円	1,100億円
営業利益	53億円	80億円
経常利益	54億円	80億円
当期純利益	25億円	45億円



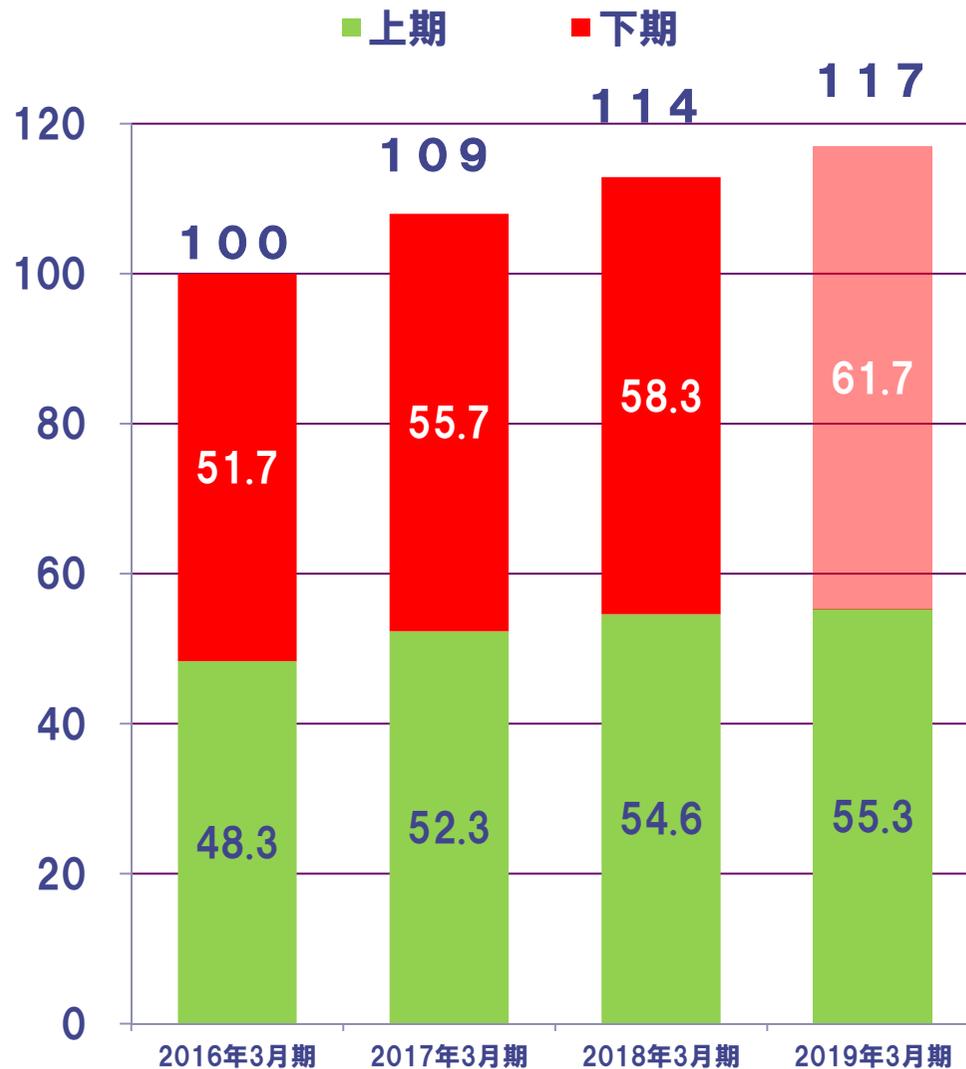


◆ 売上数量計画 ■ 売上数量実績・予測



売上数量推移

(2016年3月期を100とする指標)





ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

売上高推移

(2016年3月期を100とする指標)

■ 上期 ■ 下期



◆ 売上高計画 ■ 売上高実績・予測



増設

C : コンパウンド
F : フィルム

RIKEN (THAILAND) CO., LTD.

2018年11月 稼働予定 (塩ビ) C



RIKEN ELASTOMERS CORPORATION

2018年12月 稼働予定
(合理化設備増設) C

増設

増設

RIKEN ELASTOMERS
(THAILAND) CO., LTD.

2018年4月 稼働
(エラストマー) C



増設

PT. RIKEN INDONESIA

2018年8月 稼働
(塩ビ) C



リケンテクノス

2018年1月 再稼働 (塩ビ) C

2018年3月 稼働 (フィルム) F

2019年3月 稼働予定 (エラストマー) C

2020年 研究開発棟増設予定 F C

増設・再稼働

増設

RIKEN VIETNAM CO., LTD.

2018年6月 稼働
(合理化設備増設) C



2018年3月期

2019年3月期

2020年3月期以降

日本

埼玉工場 フィルム新鋭機導入

埼玉工場 塩ビライン再稼働

三重工場エラストマーライン増設

蒲田 研究開発センター増設

デザイン企画会社のM&A

海外売上高比率
目標 55%以上

アジア

中国 自動車市場調査 スペックイン活動

インドネシア塩ビライン増設

タイ エラストマーライン増設

ベトナム 合理化設備増設

アジア 自動車・医療市場調査

タイ 塩ビライン増設

インド販社設立

アジア フィルム市場調査

フィルム海外生産拡大

アジア
エラストマー& 塩ビライン
増設検討

北米

北米 建材フィルム普及グレード拡販

米国 合理化設備増設

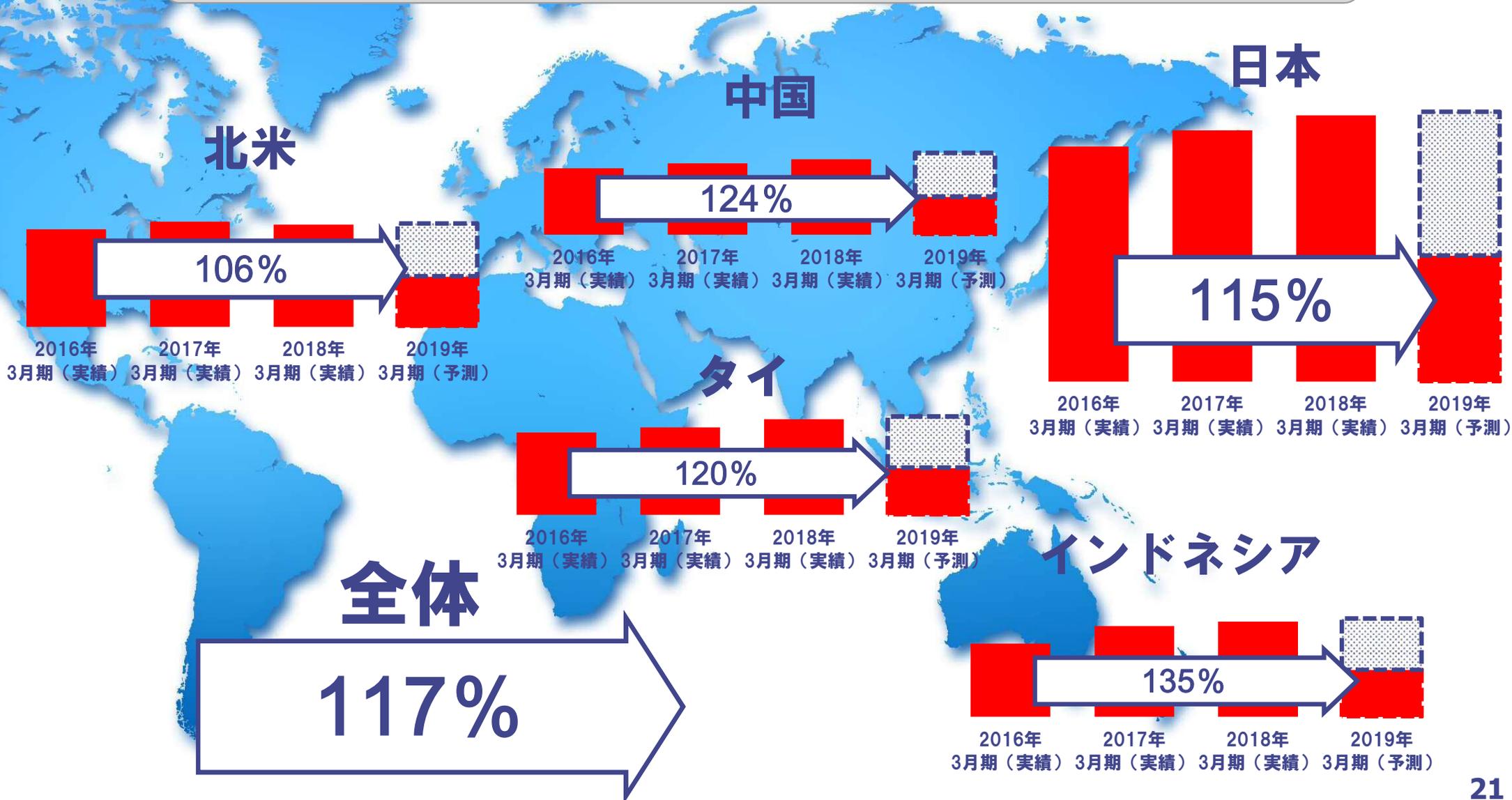
北米自動車・建材・未開拓市場調査

メキシコ自動車市場調査

米国
エラストマー& 塩ビライン
増設検討

地域別売上数量の推移

2016年3月期比





事業戦略

**アジア・北米市場における
圧倒的な存在感の確立**



◆ワイヤーハーネス:薄肉絶縁材採用拡大

→自動車メーカーの軽量化要求に対応

2019年3月期 **+21億円 (前期比)**

◆内外装材・シール部材:アジア、北中米採用拡大

→日本承認材の海外展開

2019年3月期 **+18億円 (前期比)**

市場動向(予測)



売上高(予測)

2019年3月期: **+44億 16% UP (2016年3月期比)**

売上高 (億円) ■ 内外装部材 (国内) ■ 内外装部材 (海外) ■ W/H



中計目標

345



ASEAN・インド戦略

◆ASEAN

4 製造工場（タイ 2 拠点・インドネシア・ベトナム）のコンパウンド製造設備をさらに増強し、供給体制を強化

◆インド

インドに販売会社設立をし、販売体制を強化
（設立時期：2019年1月設立予定）



ASEAN・インドでの更なる積極的な拡販を行う

市場動向：拡大する自動車生産台数



売上高(予測)





中国戦略

◆ 年間生産台数3,000万台を超え、市場伸び率の高い中国において新たに日系機能部品を中心にTPEコンパウンドを拡販



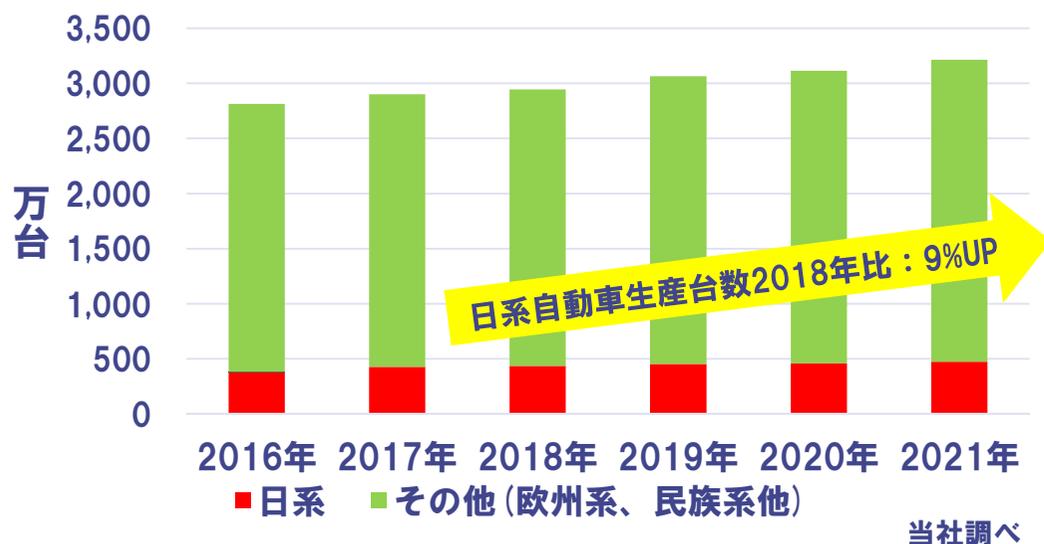
現有中国拠点に自動車専任部署を設置し、TPEコンパウンドの拡販体制を確立

TPE市場規模(2018年)

カテゴリ	金額 (億円/年)
日系	65
その他 (欧州系、民族系)	330
合計	395

当社調べ

市場動向：拡大する自動車生産台数



日系向けTPE市場販売目標



24

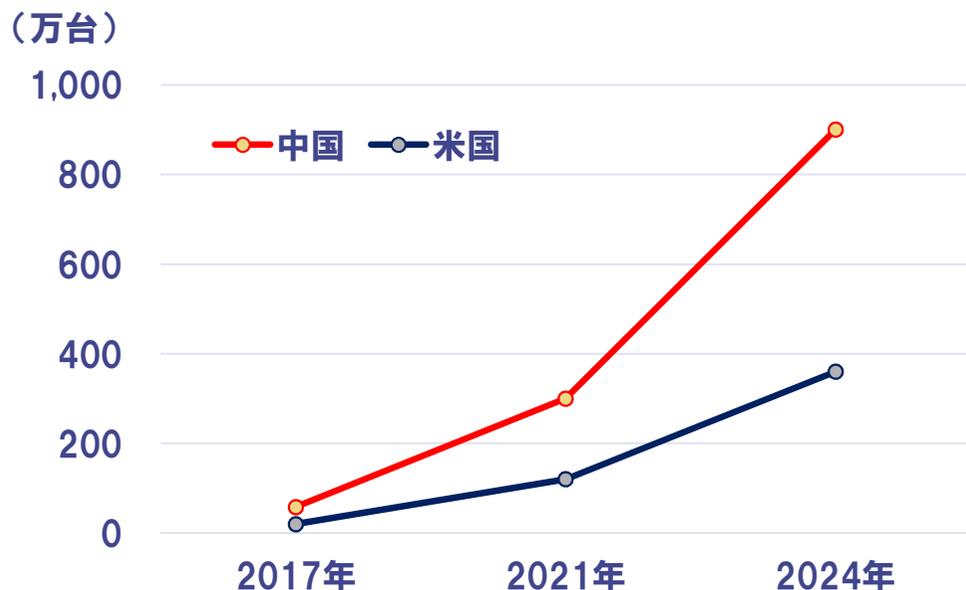


電気自動車普及を促進する主な規制

中国NEV規制導入 2019年より

米国ZEV規制強化 スタート済み

EV/PHV販売予測

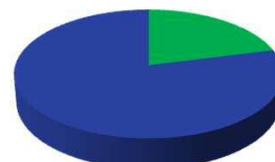


**柔軟性、耐寒・耐熱特性に
優れた電気自動車用ケーブル
材料（コンパウンド）を
開発済み**

ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

充電ケーブル用コンパウンド販売目標

2021年市場規模: 50億円

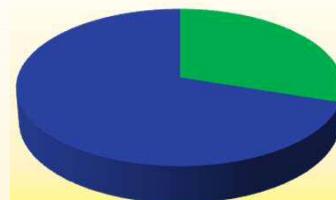


■ 当社 ■ 他社

2021年
売上目標

10億円
(目標シェア: 20%)

2024年市場規模: 135億円



■ 当社 ■ 他社

2024年
売上目標

40億円
(目標シェア: 30%)



事業戦略

グローバルに血液回路材を拡販 新市場への参入

血液回路用塩ビコンパウンド世界市場規模と当社シェア



新市場参入計画

医療用栓体製品の新規採用

⇒ 材料承認済、2021年3月期販売開始

医療用フィルム市場参入

⇒ 2019年3月期承認⇒2021年3月期販売開始

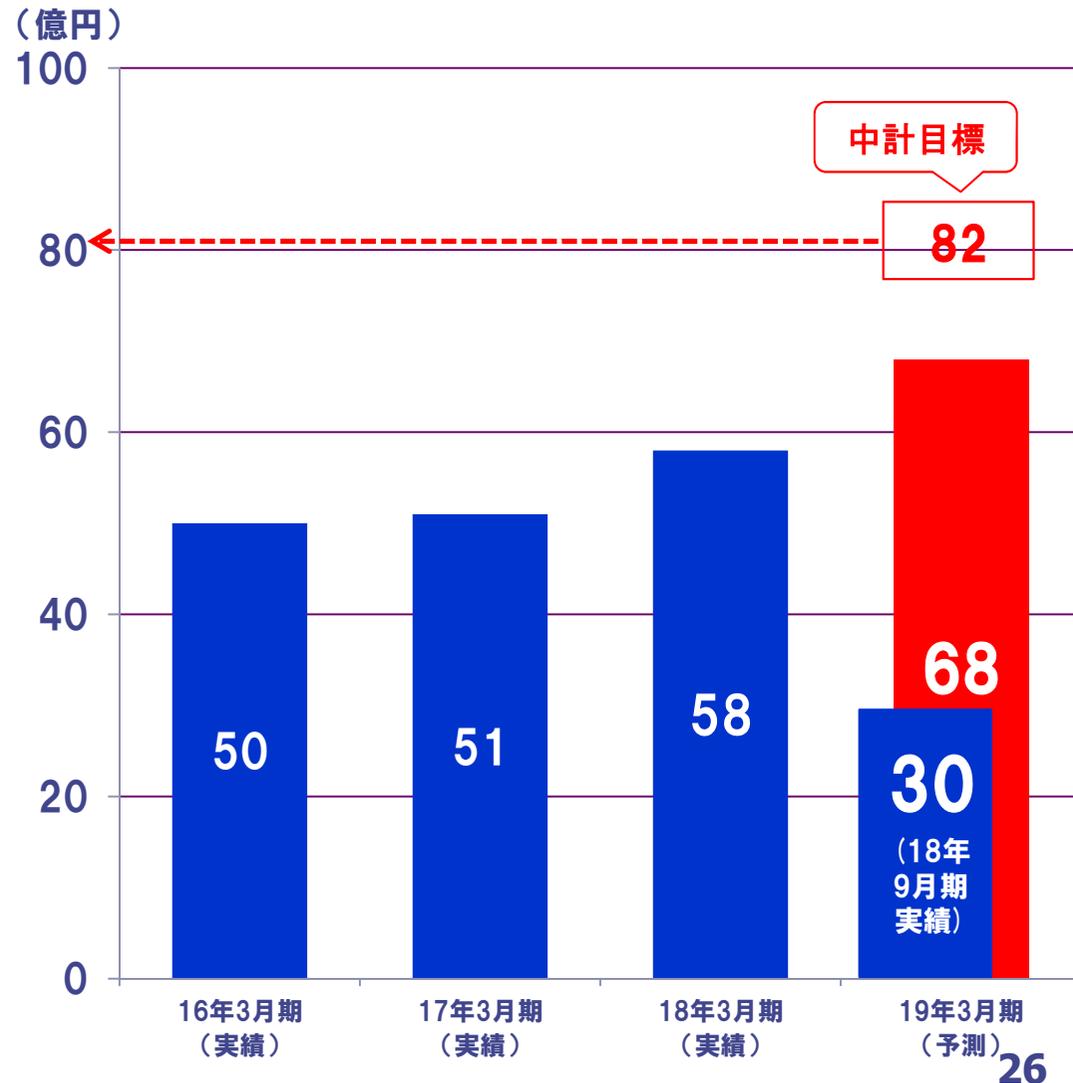
⇒ 複数メーカーへ評価開始

医療用フィルム他用途への展開

⇒ サンプルワーク開始

医療用売上高 (予測)

2019年3月期：+18億 36% UP (2016年3月期比)

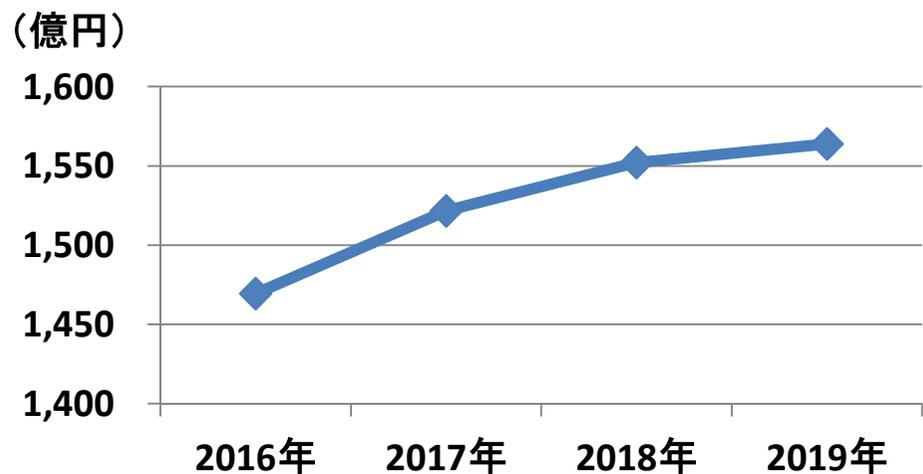




事業戦略

- REPTY®DC100の実績横展開
⇒ **新規大型案件獲得、早期実績化**
- REPTY®DC100の車両・産業用途展開
⇒ **国内外展示会でPR、車載用注力・実用化**

世界タッチパネル市場(販売金額)



出典：富士経済

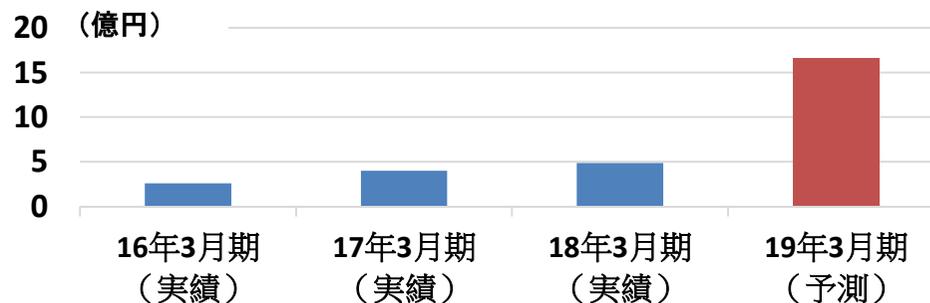
商品採用例・実績

※写真はイメージです

- ・スマホアクセサリ
- ・スマホ(国内外)
- ・業務用タブレット
- ・医療用モニター
- ・**タブレット型端末**
- ・**デジタル音楽プレイヤー**
- ・**デジタルサイネージスクリーン**
- ・**大型特殊タブレット**

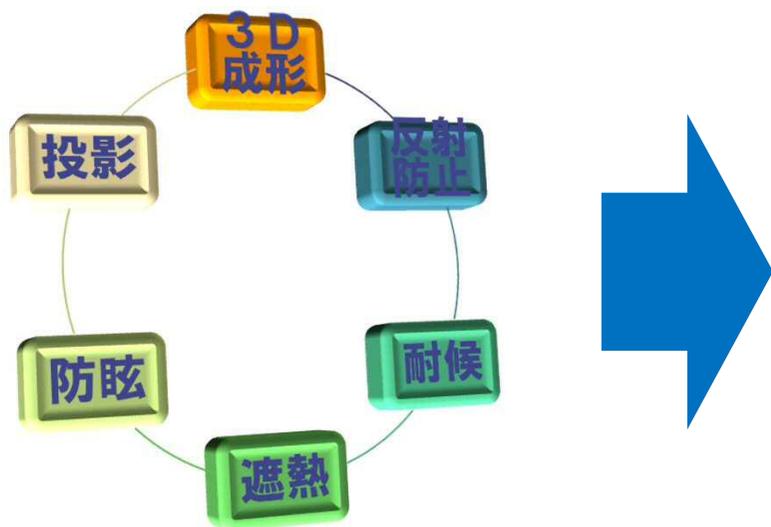


売上実績・予測





更なる機能複合化 ⇒ 車載市場オンリーワン・ナンバーワン



◆3D & ARディスプレイ



※写真はイメージです

◆軽量ウィンドウ



◆デジタルサイネージ



車載タッチパネル市場規模



- ・モバイル・産業用 実績
- +
- ・軽量・三次元成型・防眩・反射防止
- ↓
- ・車載用ディスプレイ・ウィンドウ・HUD
- ・デジタルサイネージスクリーン
- (プロジェクション・マッピング市場投入開始済)



事業戦略

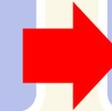
塩ビ化の推進：優れた包装適性を訴求

業務用ラップ市場

大手スーパーへの塩ビラップ訴求活動

塩ビ業務用
ラップシェア

2016年3月期
36%



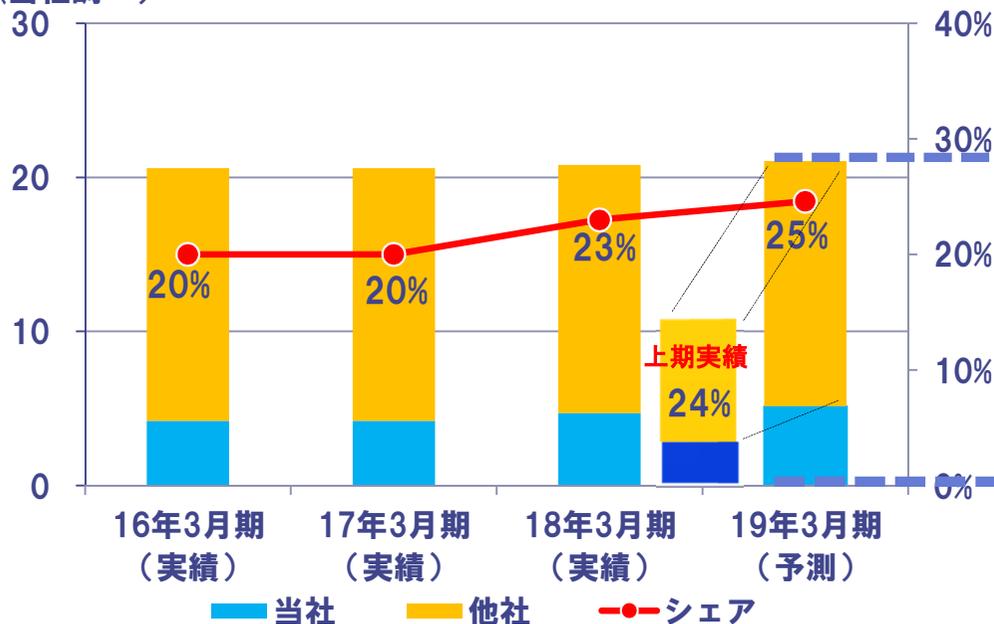
2019年3月期(予測)
41%

(当社調べ)

小巻ラップ市場

単位：千t
(当社調べ)

営業用小巻ラップ市場推移



小巻ラップ市場(2018年)

小巻市場合計：550



家庭用市場
へ販路開拓
プライベート
企画商品の
受託推進





2018年10月1日 デザイン企画会社を子会社化

デザイン
素材トレンド
収集

企画開発・提案
コーディネート

フィルムの
高意匠化

デザイン力強化

あらゆる生活空間へ



3年間での設備投資合計予測：163億円（当初計画：160億円）

単位：億円 ※メンテナンスを含む。

年度	主な設備投資	総額	減価償却費	研究開発費
2017年3月期 (実績)	中国塩ビ増設 米国塩ビ増設 ベトナム塩ビ新設	52	32	13
2018年3月期 (実績)	国内フィルム設備導入 国内塩ビ設備再稼働 インドネシア塩ビ増設 タイエラストマー増設	47	34	14
2019年3月期 (予測)	インドネシア塩ビ増設 タイエラストマー増設 タイ塩ビ増設 国内エラストマー増設	64	38	14

連結配当性向30%程度を一つの目途

安定配当

(円)

	中間	期末	通期	年間配当性向 (連結)	純資産配当率 (%)
2016年3月期	5.00	5.00	10.00	24.1	1.5
2017年3月期	5.00	6.00	11.00	24.0	1.6
2018年3月期	6.00	6.00	12.00	28.8	1.6
2019年3月期 (予想)	6.00	7.00	13.00	28.8	-

配当方針：連結配当性向30%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経理部 高見